

2-⑨ 指導計画の改善（カリキュラム・マネジメント）

カリキュラムづくりへの参画・チャレンジ

加茂市立石川小学校 山本 哲哉

1 研究の視点に関する実態

*名木野小学校（前任校）に、防災教育と伝統活動を結びつけたカリキュラムがあるが、6年生の学習内容は明確ではなかった（十分とは言えなかった）。

*伝統活動に「草薙龍」がある。やまたのおろち伝説にちなんだ内容であるが、毎年3・4年生が合同で大きな龍を活用した劇を行う。7.13水害で大きな被害を受けた名木野小では防災教育にも力を入れ、5年生は夏休みに学校に宿泊して防災についての様々なことを学んでいる。

【赴任前】1年：地域探検・草薙龍との出会い。2年：やまたのおろち伝説を学ぶ。

3年：地域探検で草薙・名木野のいわれを知る。「草薙龍」を演じる。

4年：川の学習と並行して「草薙龍」を演じる。

5年：防災スクール（学校泊〔一泊二日〕）や防災教育発表会を行う。

6年：防災教育のまとめ（不十分）←ここへのチャレンジ

2 改善のための具体的な方策と取組内容

*外国語活動のカリキュラムの中に、「英語で昔話をしよう」という内容がある。これを草薙龍の英語劇に変えられないかと考えた。これにより、1年から6年までを通した、いわば「骨太のカリキュラム」となることが期待される。

【実現のための具体的な方策】

(1) シナリオの作成…日本語の台本を英語バージョンに（ALTとの協働）

(2) ミニ龍や音声データの作成…教育委員会からのバックアップ等

(3) 時数の確保…外国語活動，総合的な学習の時間，国語，図工等との関連

(4) 実施場所，宣伝，対象者の工夫…体育館で 学習参観時や児童向け公演も

3 取組の成果と残された課題

*中教審答申にある「カリキュラム・マネジメントの3つの側面」から振り返る。

(1) 「教科等横断的な視点」からはどうか…前述の教科等での関連

(2) 「PDCAサイクル」からはどうか

*前の学年のスタイルを生かして独自のスタイルで（単に全てを踏襲しない）

*対象（観客），演じる場所，上演回数，龍の活用なども毎回オリジナル

(3) 「人的・物的資源等を地域の外部の資源も含めて活用」しているかどうか

*着付け等でお年寄りの支援 *地域にある「草薙龍」伝説の活用

【課題】

○演技の専門家やALTによる音声・表現指導との関連を図りたい。

○現在3年目である。10年は続け、カリキュラムに位置付けたい。

